

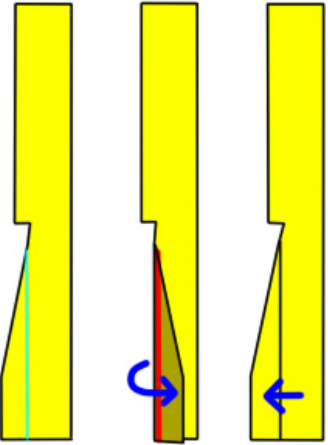
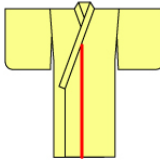


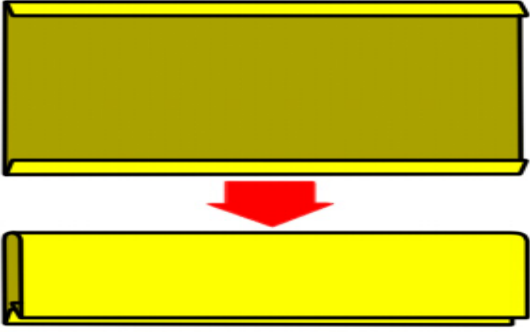
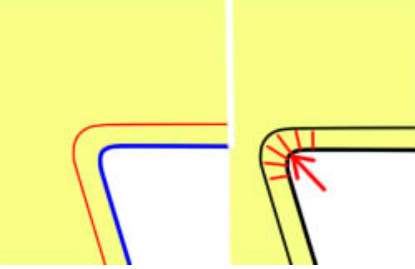
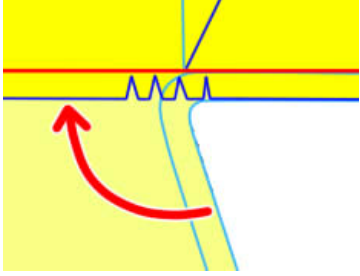
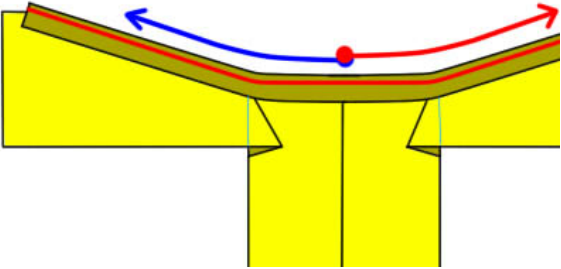
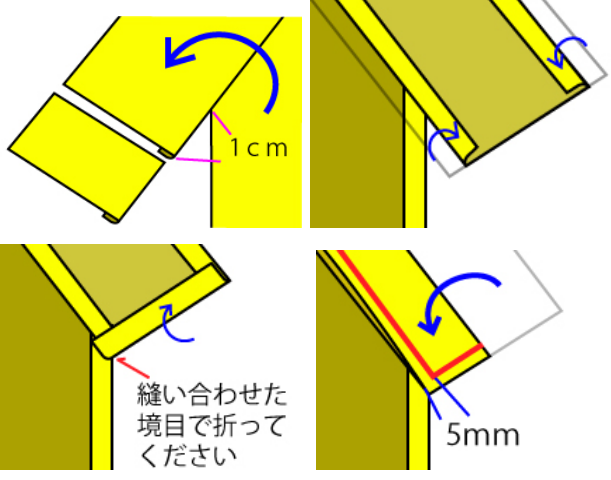
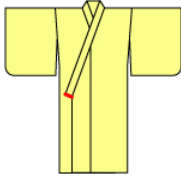
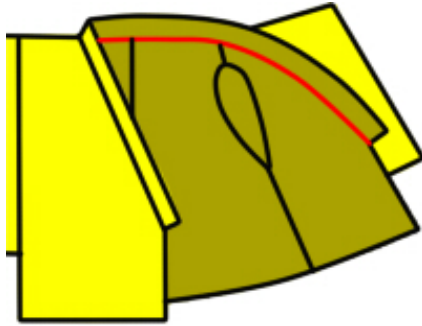
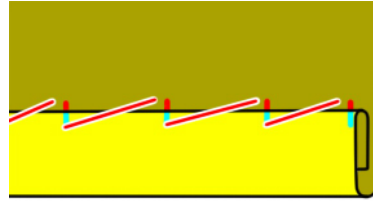
 <p>布の印のつけ方や 接着芯の貼り方は 縫う前の下準備で 詳しく説明しているよ まだ見たことがない 人は先に見てね!</p> <p>→ 縫う前の下準備</p>	<p>■表 ■裏</p> <p>裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをしてください。 型紙を切る前に線のう上にピケ(ほつれ止め液)を塗ってください。 ピケが乾いてから切ると型崩れせず楽ですよ。 お洗濯をしない場合はほつれどめは水で薄めた木工用ボンドでも代用が出来ます。</p>
	 <p>おくみの片方の縫い代を裏に折って縫ってください。 縫い目が出るのが嫌な方はボンドか、布用両面接着テープを使うと簡単です</p>
	 <p>おくみ（前中心のパーツ）と前身頃（胴体）を表側が内側になるように重ねてください。 中心を7mm幅で縫ってください。</p>
	<p>身頃（胴体）を表側同士が内側になるように重ねてください。 後の中心を7mmの幅で縫ってください。 アイロンで背中心の縫い代を両方とも表から見て左に折ってください。</p>  <p>一方方向に縫い代を折ることを、おさいほうの用語で倒すといいます。</p>

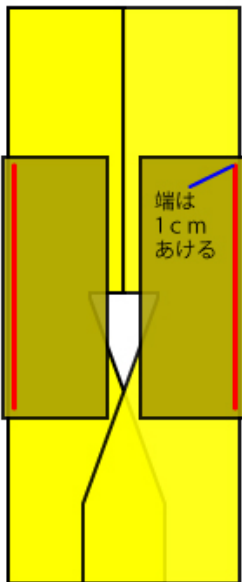
	<p>えりをアイロンで折ってください。 両端の縫い代を裏へ7mm折り、さらにそれを真半分に折ってください。</p>
	<p>えりの肩のカーブの縫い代に4~5mm程度の切り込みを入れてください。 切り込みを入れないとカーブがきついで、しわが入りやすいので、忘れずに。</p> 
	<p>表同士が内側になるように身頃（胴体部分）にえりを重ねてください。 襟（えり）の中心と、身頃の背中心を合わせてから左右を縫っていくと綺麗につけやすいです。</p>
 <p>縫い合わせた境目で折ってください</p> <p>5mm</p>	 <p>えりを縫いつけたあと、縫い代1cm残して先を切ってください。 えりの両端の縫い代を裏側へ折ってください。 えりの先の縫い代を裏へ折ってください アイロンでつけた折り目で半分に折って端から5mmのところを縫ってください。</p>



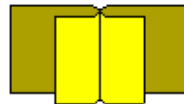
衿の裏の赤い部分を手縫い（まつりぬい）で表側に目立たないように縫ってください。
 こだわらなければ表側からミシンで縫ってもいいです。



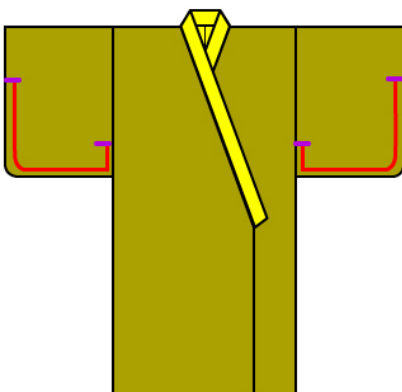
まつりぬい



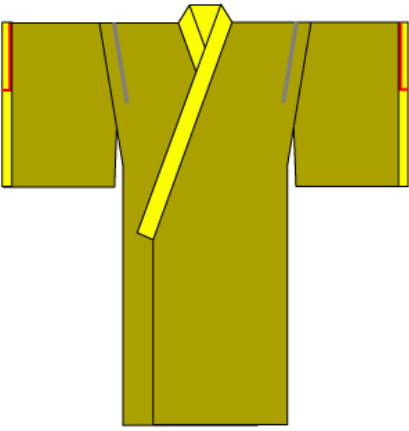
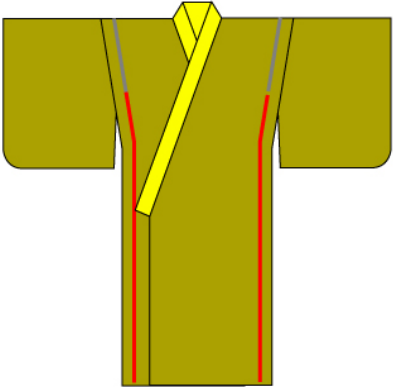
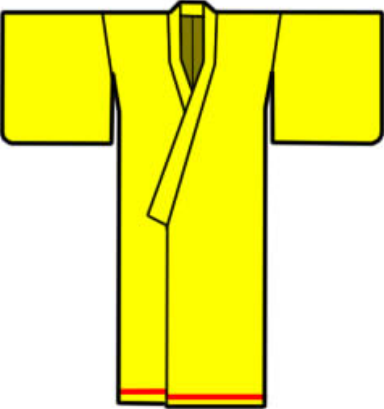
身頃（胴体）と袖（そで）を表側同士が内側になるように重ね縫ってください。
 肩と、そで山を合わせて、両端7mm（縫い代分）開けて縫っててください。
 縫い代は左右に折ってください。



おさいほうの用語で割るといいます。



袖口の印から、身頃（胴体）と縫い付けた縫い目ギリギリまで7mmの幅で縫ってください。
 縫い代は後（背中側）へアイロンで折ってください。

	<p>そでくちの縫い代を内側へ三つ折りか、二つ折りして手縫いで縫ってください。 もしくは熱接着の両面テープで固定する。 先にアイロンで折り目を付けて縫うと楽ですよ。</p>
	<p>脇を7mmの幅で縫ってください。 そでの付け根ギリギリまで縫ってください。</p>
	<p>すそを7mm裏に折って5mmの所を縫ってください。</p>

必要な材料

表生地 記事にあった色の糸

オススメの生地

シーチング、ブロード

やわらかい生地なので浴衣特有の張りを出すために完成後洗濯のりをつけて張りを出すといいですよ